

## カンキツ貯蔵病害の体系散布による防除

農業研究センター 果樹研究所 病虫化学部  
担当者:横山 威

### 研究のねらい

カンキツ不知火等の貯蔵時に問題となっている果実腐敗を防止するため、現在登録されている薬剤の効果的な使用法を検討する。

### 研究の成果

- 1 チオファネートメチル水和剤 2,000 倍またはイミノクタジン酢酸塩液剤 253,000 倍を、それぞれ単独で散布しても防除効果(緑かび病及び青かび病)は低い。
- 2 チオファネートメチル水和剤 2,000 倍を収穫 3 週間前に散布し、さらにイミノクタジン酢酸塩液剤 253,000 倍を収穫 1 週間前に散布する体系散布は、防除効果が高い。
- 3 果実に傷を付けると、体系散布の防除効果がなくなる。

### 普及上の留意点

- 1 各薬剤の収穫前使用日数を必ず守る。
- 2 収穫時に果実に傷を付けない。
- 3 チオファネートメチル水和剤の多数回使用は、耐性菌を増加させる。

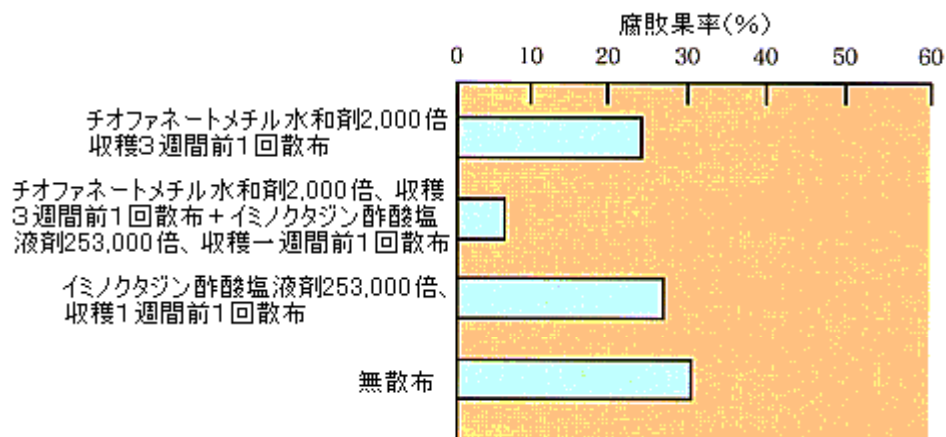


図1 長期貯蔵時の果実腐敗防止効果（貯蔵後65日目）  
カンキツ不知火を使用、収穫日は平成11年1月13日

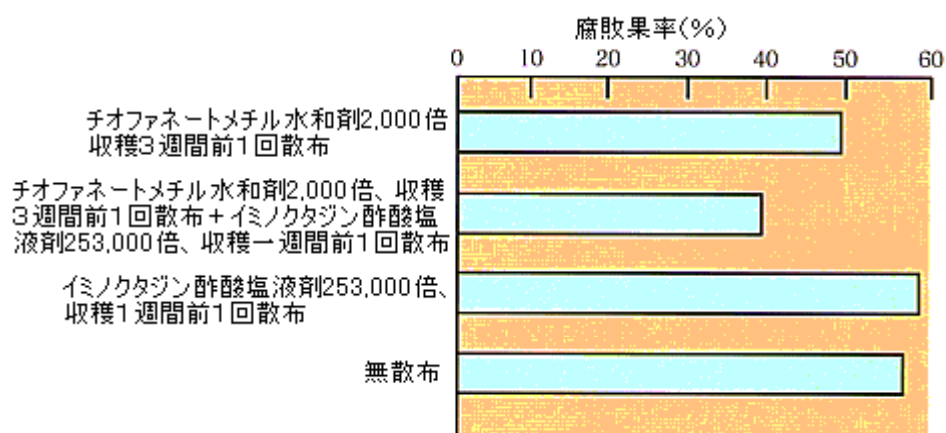


図2 付傷貯蔵時の果実腐敗防止効果（貯蔵後19日目）  
貯蔵前にアスファルト上で5m転がした果実を利用